

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	横浜市自治会町内会新しい活動スタイル応援事業		
事業の実施者	事業者	(法人名) YOUテレビ株式会社	
	行政	横浜市市民局地域活動推進課	
事業の目的	新型コロナウイルス感染症の影響が続く状況下においても、地域の絆をつなぎ、自治会町内会活動を継続・活性化していくため、ICTを活用した新しい活動スタイルを支援する。		
事業の内容	ICTを活用した会議、情報伝達等を体験する講座の実施、相談対応 等		
役割及び責任 分担等	必須項目	事業者の役割	横浜市の役割
	オンライン会議、LINEその他のツールを使った情報伝達・共有等の体験	<ol style="list-style-type: none"> 1 講座の企画及び実施 2 参加団体との連絡調整 3 会場設営、運営サポート 4 会議ソフトやLINE等の活用方法紹介 5 上記に係る相談及び講座資料の配布 6 参加者アンケートの実施、集計、実施報告書の作成 	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業広報、事業者提案とりまとめ 2 地区連合町内会との連絡調整 3 参加団体募集、とりまとめ 4 講座の企画・実施協力 5 アンケート全体分析
	ICT活用に関連した相談対応	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談会の企画及び実施 2 電話・メール等による質問、相談対応 3 相談対応記録の作成 	<ol style="list-style-type: none"> 1 地区連合町内会との連絡調整 2 相談会の企画・実施協力 3 相談事例のまとめ、紹介
	今後のICT活用に向けた提案	ICT活用に向けての課題整理、活用手法の提案	ICT活用に関する今後の支援策の検討
実施期間	令和2年10月12日～令和3年12月2日		

記入日	2021	年	12	月	27	日
・団体等名：	YOUテレビ株式会社 企画部					
・記入責任者氏名	部長 佐藤 隆英					
連絡先：	0120-317-230					
・部署名：	市民局地域活動推進課					
・記入責任者氏名	木村 剛、森 芽久美					
連絡先：	045-671-3624					

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

	事業者	横浜市
この事業の目的やミッションを互いに共有し、理解することができたか。	B	A

②事業実施段階

	事業者	横浜市
互いの役割を自覚し、強みを生かしながら、積極的に取り組むことができたか。	B	B
参加者のニーズや事業の進捗に応じて、臨機応変に対応しながら取り組むことができたか。	A	A

③ふりかえり段階

	事業者	横浜市
参加者が満足を得られたかどうかについて、互いに結果を共有し、確認できたか。	C	B
事業目的を達成するため、互いが役割を果たし、期待された事業成果を得られることができたか。	B	A

3 事業評価相互検証シート

「2 事業実施プロセス相互チェックシート」の結果をもとに相互に本シートを作成し、まとめます。

事業の計画づくり (事業の計画段階で、お互いの認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはありますか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 書式の受け渡しについて、当社でフローに関する資料を作りそれを双方で確認する必要があった。また、自治体に対する窓口が複数（市・区・事業者）あったために情報の行き違いなどがあった。
【今後改善が必要と思われること】 コロナ禍での取り組みでもあり仕方ない部分も含め、追加情報を精査することが困難だった。市・区・事業者間で情報の共有と役割分担、フローの確立を事前に確立させるべきであったと感じる。 デジタルツールを用いたことがない方も多い中では、「ICT」という用語がそのまま使われていることは、より IT アレルギーを生み出すケースを踏まえ、できるだけ「タブレット講座」などとしてご説明するよう努めた。アルファベットが並ぶとより理解を深められないケースが多く IT アレルギーの方は遠のくため、講座を始める前に「初心者向け」であることをアピールして始めた。 また、自治会の中で ICT に関する取組が自治会の皆様に理解されていないケースもあり認識に差もあった。自治会で検討を頂く前に、前段の話をしっかりとすべきであったと感じる。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いの認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】
【今後改善が必要と思われること】 事業（予算）のルールが不明瞭な部分があり、対応工程が増えてしまったため、しっかりとした事前の取り決めが必要であったと感じる。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、得られた成果はありますか。また、事業全体を通して、当初期待された事業効果は得られましたか)
・自治会の皆様にお喜びいただけたことが一番の収穫である。講座終了後にヒアリングしたところ、今までアナログの方法で情報共有をしていたが、LINE のグループを作ったというご報告をいただき、新しい時代の自治会活動の一助になったのではと感じる。 今回、最大で 20 名程度の講座を開催したが、やはり、会社で十分に電子機器使いこなしている人と、電源の入れ方からお知らせをすべき方で一緒の時間を過ごしていただくことには無理がある（初心者向けと事業者が説明いても難易度に関する認識の溝を埋めることは難しい）。行政からの事前の説明のほか、レベルに分けて講座開催する必要もある。（幅が広すぎると、事業者としてどんな情報を事前に用意して行けばよいか、質問に答えられるかなどが推測できないケースもあるため） また、講師だけいても、どこで躓くか人によって違うため、ほとんどサポーターがつきっきりである必要があった。そのため、アンケートでも「サポーターにすぐ聞ける」という状況を評価いただいていたよう

なので、講師が前にいて話すだけの講座では難しいと思う。

自由記入欄

横浜市：前例のない事業ということで、事業を進めながらスキームも微修正するという中で、協働事業者の皆様には多大なご負担をおかけしました。講座の実施においては、丁寧なご説明をはじめ、参加者の方に寄り添いながら細やかにフォローをしていただきました。事業者の皆様からいただいた意見も踏まえ、今後の地域支援につなげていきたいと考えています。